

## 事例1 第2学年 内容項目：A 希望と勇気、克己と強い意志

- |                                   |                         |
|-----------------------------------|-------------------------|
| ・問題意識を高める導入                       | ・教材の登場人物に自我関与させる発問      |
| ・ねらいとする道徳的価値を実現しようとする動機を掘り下げる話し合い | ・道徳的価値の意義について考えを深める話し合い |
| ・自分を見つめる書く活動                      |                         |

### 1 主題名 目標達成のために

- 2 **ねらい** 主人公の心情を、多面的・多角的に考えさせる活動を通して、困難や失敗を乗り越える際の力は、これまでの自分の努力や周囲の人の支えであることに気付き、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げようとする態度を育てる。

**教材名** 「心の涼風」(出典：「彩の国の道徳(中学校)『自分をみつめて』」 県教委)

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいや指導内容について

本時は、内容項目「より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。」に関するものである。

「希望」とは、自分で思い描いたあるべき姿、よりよい状態の実現を願う気持ちであり、「勇気」とは、不安や恐れを抱いて躊躇する気持ちに屈せずに、自分が正しいと思うことをやり遂げようとする積極的な気力である。自分自身で目標を設定し、その達成を目指すことは、日々の生活や人生を充実したものにする。しかし、目標の実現には様々な困難を乗り越えなくてはならず、困難や失敗を経験することもある。逆境から立ち直り、目標に向かって努力し続けるには、困難や失敗を受け止めて希望と勇気を失わない前向きな姿勢や失敗にとらわれない柔軟でしなやかな思考が求められる。

時には、今の自分自身の力や努力だけでは、困難や失敗を乗り越え難い場面に直面することもある。その際、重要となるのが、「これまで積み上げてきた努力」や「形成してきた積極的な自己像」である。また、「克己」には、自分自身の力のみで立ち上がらなければならないという印象があるが、「様々な支え」によって、困難や失敗を乗り越えられる場合があるのだと理解することも重要である。

指導に当たっては、生活の中で具体的な目標を設定したこと、或いは、その実現に向けて努力したことを振り返らせ、目標を達成するためには何が必要かを考えさせたり、自らの歩みを自己評価させたりすることが大切である。また、友人や家族など多くの人々の支えにより、頑張ることができるといふ点にも気付かせたい。

#### (2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

道徳科では、これまでに「尾高惇忠が目指した富岡製糸場」という教材を用い、偉人の生き方について考える学習を通して、目標の達成を目指し、現実をよりよくしようとする実践意欲を高める指導を行った。授業の「振り返り」では、目標を達成するために頑張ろうという希望や勇気を抱く生徒が多く見られた。

特別活動では、自身の理想を思い描き、意欲的に取り組むプロセスを重視した活動を行っている。しかし、失敗や困難に直面すると諦めてしまったり、目標を下方修正したりする生徒が多い。また、目標を達成することにプレッシャーやストレスを強く感じる生徒も見られる。そこで、本時では、困難や失敗を乗り越えようとする時に力になるものについて考えさせたい。

#### (3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、主人公の「康雄」が部活動の最後の大会直前に怪我をしてしまうところから始まる。怪我について、友人の誠励まされるものの、思うように記録が伸びず、苛立ってしまう。その後、誠からの手紙や自分の過去のノートを振り返り、今の自分を見つめ直し、大会に臨むことができた。困難や失敗に直面したとしても、これまでの自分の努力や周囲の人々の支え(応援)を糧に、再び希望や勇気を抱くことができるといふことを考えるのに適した教材である。

本学級の生徒の実態を踏まえ、主に次の場面を基に話し合うこととする。

##### ① 康雄が誠励にハードル走を断念しようと考えていることを伝えた場面

困難や失敗に直面し、自身の練習がうまくいかないことで苛立ち、友人の発言も素直に聞くことができない主人公に共感させることを通して、弱さももつ人間についての理解を深める。

②自身のこれまでのノートや誠の手紙を読み、手に自然と力が入った場面（中心場面）

主人公が再び、勇気や希望を抱くことができた理由を様々な視点から考えることを通して、困難や失敗を乗り越える力となるものは、これまでの自分の努力や周囲の人の支え（応援）であることに気付かせる。

③大会当日、走り終えた場面

ベストの走りはできなかったものの、「涼風」をキーワードにして、主人公が清々しさを抱いた理由を考えさせることを通して、困難や失敗を乗り越えてやり遂げるよさ（意義）について考えを深めさせる。そこから、失敗しても自分がやり遂げたのであれば、充実感を得られることに気付かせたい。

以上の理由から、本主題を設定した。

#### 4 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点☆評価の視点
導入	<p>1 アンケートの結果について感想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果を見てどう思いましたか。</li> </ul> <p>(補助発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目標が達成できなかったとき、どのように思いましたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思ったよりも多くの方が目標を達成できなかった経験をもっている。</li> <li>悔しい。</li> <li>次頑張ろうと思う。</li> <li>もう挑戦したくない。</li> <li>自分にはあっていなかったのだと考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に行ったアンケートを集計して、提示する。アンケート項目については以下のとおりとする。</li> <li>①目標を達成できなかったことはあるか。</li> <li>②それはなぜか。</li> <li>導入の段階で、これまでの経験を振り返らせることで、道徳的な課題を自分事として捉えながら話し合ったり、振り返って書いたりできるようにする。</li> </ul>

#### 問題意識を高める導入

T：以前に実施したアンケートの結果です。これを見てどのように感じますか。

S：目標を達成できなかったことがある人が多い。

S：私と同じ理由の人がいる。

S：目標を必ず達成できる人はすごいと思う。

S：目標を立てても、ついつい誘惑に負けてしまうことがある。

T：目標を立てても、途中でこれは無理だなと思ったことはありますか。

S：ある。

T：そのようなとき、どうしましたか。

S：途中で諦めた。

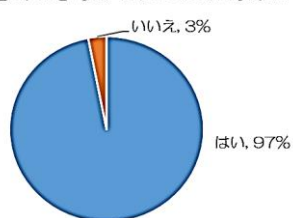
T：それでよいのですか。

S：よくはないかもしれないけれど・・・。

T：今日は、同じような経験をした主人公の話をもとに、立てた目標にどう向き合うかについて考えていきましょう。

アンケート結果から自分たちの課題を見つめ、問題意識を高めた。

目標を達成できなかったことがあるか



達成できなかった理由

- 努力や気持ちが足りなかった。
- 努力が遅かった。
- 難しい目標を設定してしまった。
- 本気でやっていなかった。
- 環境が適してなかった。
- あきらめてしまった。
- 目標に向かって、がんばっていないかった。
- 継続できなかった。
- 途中でやる気がなくなってしまった。
- めんどくさくなってやめた。
- 自信がなかった。
- 遊んでしまった。
- 始めるのが遅かった。
- 無理な目標だった。
- 意識が低かった。
- 最後の最後であきらめてしまった。
- 途中で誘惑に負けてしまった。
- 口だけになっていた。
- 自分に甘かった。

<p>展開</p>	<p>2 教材「心の涼風」を聞き、話し合う。</p> <p>(1)「何だよ。誠はハードルが得意だからそんなことが言えるんだよ。」と言った康雄は、どのような気持ちだったのだろう。</p> <p>(補助発問) 誠はどのような思いで、康雄に声をかけてくれたのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けがをしてしまったのだから仕方がない。</li> <li>・自己最低記録が出てしまうかもしれないのだから、出ない方がいいのではないか。</li> <li>・けがをしていない誠には自分の気持ちが分かるわけない。</li> <li>・自分だって、色々考えているんだ。</li> <li>・一緒に頑張りたい。</li> <li>・折角努力してきたのだから諦めてほしくない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一度の範読で、全員が教材の内容を理解し、その後の話合いに参加できるように、事前に条件・状況をしっかりと押さえてから範読する。</li> <li>・困難に直面し、その解決に苦心したり、友人の発言に苛立ったりする康雄に共感させることで、人間理解を図る。</li> <li>・次の中心発問において多面的・多角的に考えられるようにするため、誠の気持ちについても考えさせておく。</li> </ul>
-----------	---	--	---

教材の登場人物に自我関与させる発問

T：「何だよ。誠はハードルが得意だからそんなことが言えるんだよ。」と、康雄はどんな思いでこのような発言をしたのでしょうか。

S：焦っていた。

T：なぜ焦る気持ちがあったのでしょうか。

S：このままじゃライバルの誠に負けてしまうのではないかと思ったから。

S：記録が伸びなかったから。

S：うまくいかない自分への焦りもあったからだと思う。

S：焦りというより、誠の発言が嫌味っぽく聞こえてしまった。

S：そうそう、自分の気持ちも分からないのに、何言っているんだって。

S：ハードルが得意な誠に嫉妬していたんじゃないかな。

T：では、誠はどのような思いからこんな発言をしたのでしょうか。

S：ここまで頑張ってきたのだから、一緒に大会に出たい。

S：最後の大会を中途半端に終えてほしくない。

S：友達だから素直に応援しようと思った。

ここで一度、誠の気持ちを考えておくことで、次の中心発問で多面的・多角的に考えやすいようにした。

<p>(2)ノートを持つ手に自然と力が入るのを感じたのは、なぜだろう。</p> <p>(中心発問)</p>	<p>[自身のノート]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートを振り返り、これまで取り組んできた自分の努力に気付いたから。</li> </ul> <p>[誠の手紙]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誠が心から自分のことを応援してくれていることが分かったから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ノート」だけではなく、誠の手紙にも着目させる。</li> <li>・「ノート」と「手紙」を分けて板書し、両方の視点から考えられるようにする。</li> <li>☆また頑張ろうと思うことができた時の気持ちやその理由について多面的・多</li> </ul>
---	--	---

- ・誠と一緒に頑張ろうと思ったから。
- ・応援してくれる人がいることに気付いたから。

角的に考えている。(発表)

ねらいとする道徳的価値を実現しようとする動機を掘り下げる話合い

T : いろいろあったのに、ノートを持つ手に力が入ったのはなぜでしょうか。

S : 今までのノートを見て、ここで諦めてはもったいないと思ったから。

S : ノートを見て、努力を思い出して、逃げてはだめだと思ったから。

S : ノートを見直して、やる気が出てきたから。

**T : やる気が出たのはなぜですか。**

理由を問うことで、行動の裏にある心情や価値についての考えを深められるようにした。

S : 自分の記録を見ていて、自分の成長を感じられたから。

S : 今までの結果を見て、自分がしてきた努力を思い出したから。

S : 最後に書くところが空欄のままでは嫌だと思ったから。

T : 書くところって、誰がどこに書くことですか？

S : 康雄はこれまでノートに記録を書いてきたわけだから、最後の大会の記録についてもノートの最後に書きたいと思ったはず。

S : 色々悩んだけれど、もう気持ちを切り替われたから。

T : どうして気持ちを切り替えられたのですか。

S : 誠の手紙を見て、また頑張ろうと思えたから。

T : なるほど。手紙を読んで力が入ったというのですね。どうして、手紙をきっかけに力が入ったのですか。

S : 1年生から一緒に練習してきた誠が応援してくれているから。誠の存在は大きい。

**T : 今の発言と比較しながら自分の考えを話してみましよう。**

S : 確かに、これまで一緒に練習してきたから、最後も誠と一緒に出ていい記録を出したい。

友達の意見と対比し、考えさせることで、多面的・多角的に価値を捉えられるようにし、考えを深めさせた。

S : やはり誠に勝ちたいんじゃないかな。

S : 誠に勝ちたい気持ちに加えて、自分と出たいと思っている誠の気持ちも考えて大会に出ようと思った。

S : 誠の気持ちも背負って、大会に出ようと思った。

T : 誠の気持ちってたくさん出たけど、もう少し詳しく聞かせてください。

S : 手紙にも書いてあるけれど、康雄と一緒に出たいという気持ちを大事にしたいと思った。

S : 付け加えて、いい記録ではなくても一緒に出たいという思いがあったと思う。

S : 誠の気持ちに込めたいという思いと、それだけ思ってくれている誠と一緒に大会に出たいという思いを康雄がもったのだと思う。

(3)走り終えた康雄の心に涼風が吹いたのはなぜだろう。

- ・弱い自分に負けなかったから。
- ・いろいろな人に支えられて、それに応えて大会を最後まで頑張ることができ

・自分が望むような成績ではなかったのではないかと揺さぶりをかけ、結果とは別の清々しさを感じたのかを深く考えさせる。

たから。

- ・自分が努力してきたことを信じて、走りきることができたから。

### 道徳的価値の意義について考えを深める話合い

T：なぜ、康雄の心の中に涼風が吹いたのでしょうか。

S：最後まで走り切ったから。

S：努力をしてきた自分を裏切らなかったから。

S：誠の存在があったおかげで、挫折せずに大会に出ようと思えたし、そして、実際、出られたから。

S：けんかもしたけれど、誠と一緒に出られて、心のもやもやが取れたから。

T：心のもやもやって何？

S：けがしたり、自分の記録が伸びなくて、いろいろと考えたり、自分を責めたり、それが、もやもやとして残っていた。

S：誠と走れて、目標を達成できたから。

T：あれ、でも最初の目標は自己最高記録を出すことではなかったですか。

S：自分のノートや誠の手紙を読んで、記録を出すことよりも、最後の大会だし、出場して自分の全力を出して走りきるというのが目標になった。

S：記録を出すのは難しいけれど、今出せる力を精一杯出してやるのが大事だと思

問い返すことによって、最初の主人公の心情と比較できるようにし、価値の意義について考えを深めさせた。

3 今までの自分を振り返る。

- ・今日の授業を通して、感じたことや考えたことを書いてください。特に、これまでの経験を思い出しながら考えてみましょう。

- ・テストで失敗して落ち込んだ時、自分の家庭学習ノートを振り返るとこれまでの努力が感じられて、また頑張ろうと思えたことがあった。これからも自分の努力を積み重ねることを大切にしたい。
- ・私は、いつもすぐ諦めてしまう。でも、私にも応援してくれる親や友達、先生がいる。諦めそうになった時、そういう人たちのことを思い浮かべたい。

- ・じっくり考えさせるため、書く活動を取り入れる。

☆本時の学習を通して気付いた「困難や失敗を乗り越える力」に関して、自分の生活と結び付けて考えている。(ノート・発表)

自分を見つめる書く活動

私は、小学校の陸上大会の時に、5分間なわとびで出場しました。大会の3週間前にスラニアに落ち込んで、何時やともとべない、くるしい時間が長かったので、精神的にもつらかったし、数字どおしの人數を出されるので、あせりました。元々どどくとべなかつたわけでもなく、先生からも「最近どうした？」とか、「どっかやるなぞ！」という声か聞こえると、こわかったです。今回の授業で、小学校の時の事をかきおいて私がスラニアに入ってから、初めてとべた時のことです。周りで見ている友達か乗ってきて、「よかったね！」「かっこよかったね！」と自信ありように喜んでくれるのがうれしかったです。自信も、きりかかかって、全然周りか見えな...  
悪コンディションを乗り越えたい人、と思えるようになりました。きーと康雄も足元かしているという悪条件でも、自信でなっとくのかい走りかできる自信かあったから

凍良かあいたんだと思ひます。

・今日この話を聞いて、やはりたぬかかかて支えてくれる人がいれば最後まであきらめずにできるんだと思ひました。実際に僕も水泳でタイムか切れずなやんかしている時に、仲の良い友達かからの言葉により、しっかり最後まで泳げタイムか切ることかできました。なので、康雄のように逃げたか、やめたいと思つてはつて、しっかり努力かをしていれば、最後はかならずその努力かむくわれるんだと思ひました。もしむくわれるかかんとして、そこには大満足か感があるのだと思ひました。

・実際やるかと思つても結局しないことか多いので、しっかりと達成かできる目標かがあり、最後にいかに残さないうかかしたいと思ひました。

習いごとをたくさんかっていたのにほとんどかうまくいかなくてやめてしまつた。私は目標か達成かできたかという質問かに対して達成かできなかったことかかたかさんかてきていた。この話を聞いて、成功かなくてもその前かがんばつていり気持ちかこめていり目標か達成かできなかったかとしても成功かとするかことが大事かなんだかと思つた。部活で大会かでたとき、バスマもまづいたかたかた変な理由で負けてしまつた。その時「負けか...勝つた...」という感情かたかさんかてた。でもその試合はかがんばつたから成功かたいたんだかと思つた。

終末

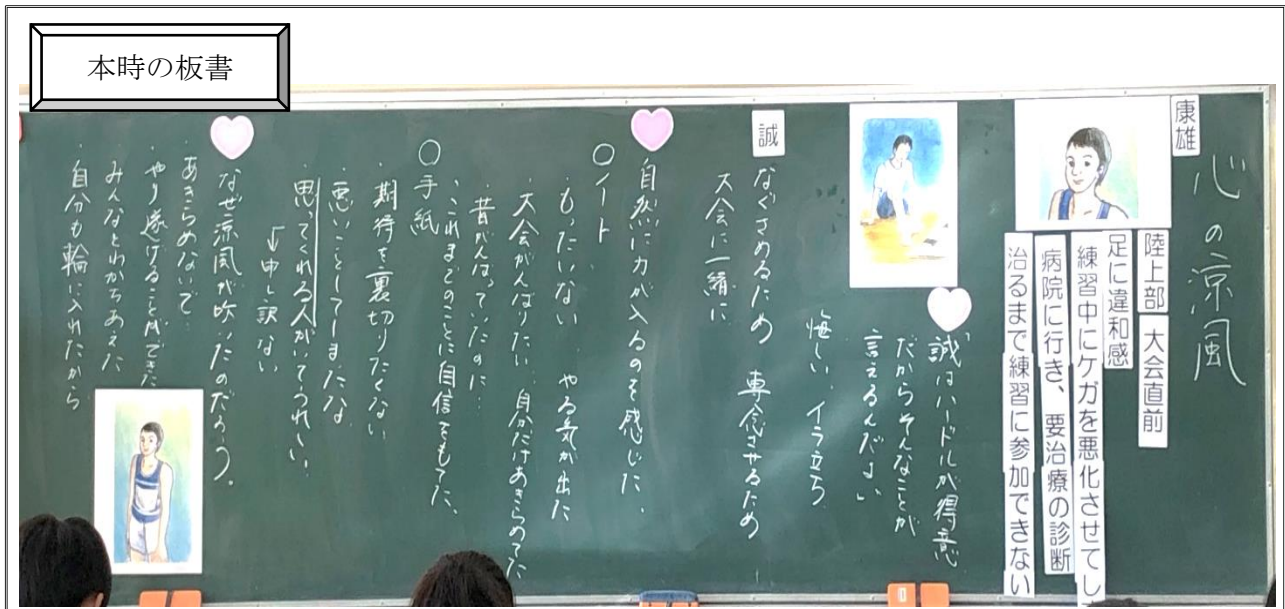
4 教師の説話を聞く。

・教師の実体験を伝えることで、誰しもが同じ経験をしていると気付かせる。

教師の説話の概要

- ・大学受験のとき、勉強かすることが苦しかつた。
- ・友達か親かか応援かしてくれ、また、多くの先生か自分一人かのために授業かしてくれて、無事合格かできた。
- ・そのとき積み上げたノートは今も大切かにとってある。今でも辛いことかあつたとき、そのノートか当時の経験か支えかになっている。

## 本時の板書



## 5 他の教育活動との関連

4月	特別活動	・単元名「一年間の目標を立てよう」 一年間の目標を設定し、達成するための努力について考えさせる。
5月	体育科	・単元名「陸上（ハードル走・走幅跳）」 練習を積み重ね、コツをつかみ、自分の目標を達成させる。また、仲間の動きから記録を伸ばそうとする心を育てる。
7月	道徳科	・教材名「尾高惇忠が目指した富岡製糸場」 目標の達成を目指し、前向きな考えをもち、現実をよりよくしようとする実践意欲を高める。
11月	事前指導	・朝の会でアンケートを実施し、目標の達成に関わる生徒の実態を把握する。
11月	道徳科	・教材名「心の涼風」（本時）
11月	事後指導	・教室内に設けた道徳コーナーに生徒の学習感想を掲示する。
11月	家庭との連携	・本時の授業内容や生徒の学習感想を学級通信で紹介し、家庭でも話題にしよう。

## 6 評価の視点

### 【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・主人公が勇気や希望を改めて抱いたときの気持ちやその理由について、他の生徒の発言を聞きながら、多面的・多角的に考えている。

### 【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・困難や失敗を乗り越える際の力となるものについて、主人公と自身の経験を重ねながら考えている。

## 7 考察

### (1) 道徳科の目標に示された学習活動

#### ① 多面的・多角的に考える学習について

本時は、「困難や失敗を乗り越える際の力」について、「これまでの自分の努力」「周囲の人の支え」という視点から多面的・多角的に考えられるように、授業を行った。

具体的には、中心発問において、自分のノートから「これまでの自分の努力」について、また誠の手紙から「周囲の人の支え」に気付けるようにした。この際、「ノート」と「手紙」に分けて生徒の発言を板書することで、両者を対比させながら考えられるようにし、多面的・多角的に道徳的価値を実現しようとする動機を捉えられるようにした。

また、この中心発問での思考を深めるための布石として、補助発問において、「誠」が主人公に声をかけた理由について考えさせた。そのことにより、中心発問では、多くの生徒が「誠」の気

持ちも視点としてもらった上で、主人公の思いを考え、発表することができていた。その一方で、「誠の手紙」の視点からの発表が多くなるため、教師が意図的に「自分のノート」について考えを深めさせる問い返しを入れることが必要になる。

## ②自分との関わりで考える学習について

多くの生徒は、立てた目標を達成するためには、努力すべきであることは理解できている。しかし、目標を立てても様々な要因により、途中で諦めたり挫折したりすることも多い。そこで、生徒の実態を把握するために事前アンケートを行い、その結果を授業の導入で示すことで、生徒が諦めたり挫折したりしたことがあるのは自分だけではないことを認識できるようにした。また、理由も示すことで、それぞれの要因について共感させることもできた。

この導入があったことで、授業後半の振り返る活動では、多くの生徒がこれまでの経験を振り返りながら自己を見つめることができた。例えば、諦めそうになったとき、これまでの努力や周囲の助けがあったから続けることができたという本教材に近い経験を書いた生徒や、或いは、目標を達成できなかった経験を想起し、今後、時には過去の自分や周囲の力を糧とし、目標の達成に向けて努力していきたいという感想を書いた生徒も見受けられた。

## (2) 視点☆に基づく本時の評価

### 【物事を多面的・多角的に考えている様子】

☆また頑張ろうと思うことができた時の気持ちやその理由について多面的・多角的に考えている。

「自分のノート」と「誠の手紙」のそれぞれについて考えを深める場面で、友達の考えと対比しながら考えさせ、その発言内容から学習状況を見取り、評価を行った。

また、教師が板書を行う際に、1～2分程度周囲と意見交換をする時間を設けた。そうすることで、自分の考えを整理でき、自信をもって発表することができた。短時間ではあるが、このように板書時間を有効に使い、生徒が思考する時間をできる限り多く確保できるよう留意した。

### 【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

☆本時の学習を通して気付いた「困難や失敗を乗り越える力」に関して、自分の生活をと結び付けて考えている。

教材を活用して話し合った後、自己を見つめ、振り返りを行わせた。

振り返りについては、「自分の生活を振り返ること」や「人に見られたり、知られたりしたくないものは、発表しなくてもいいこと」をこれまでも繰り返し伝えてきたことによって、素直に自己を見つめて書くことができる生徒が増えてきた。

本時においても、多くの生徒がこれまでの生活を振り返って書くことができていた。

ノートの記述からは、困難や失敗を乗り越えようとする時、自分一人で頑張ることも大切だが、周囲の助けを借りて頑張ることも必要だと新たな気づきを得た生徒も見られた。また、振り返りを書く際に、再度アンケートを提示し、授業前と授業後の自分の考えの変化を感じられるようにしたことで、ノートが自分自身の成長の記録となったと考える。

振り返りについては、簡単な自己評価欄も設けている。継続して記入させることにより、生徒の学習に向かう態度を見取ることができるとともに、本人の意欲にもつなげている。

## (3) その他

中学生という発達段階から、発言することに消極的となる生徒は少なくない。特に、自分の考えを求められることが多い道徳科では、その傾向が一層強まる。そこで、最初に生徒が行った発言に対しては、問い返しを少なくし、多くの生徒が発言できるよう配慮している。授業の導入で、多様な発言が出る雰囲気を醸成しておくことにより、最も考えを深めたい中心発問では、問い返しに対しても多くの生徒が発言することができるようになる。また、発言しない一因として、自分の発言に自信がもてないことが考えられるため、短時間ながらも周囲と話す場面を設けてきた。これにより、自信をもって発言できる生徒も増えてきている。

板書では、思考を支えるキーワードや場面絵、条件状況のみ準備しておき、話し合う内容については、その場で板書した。また、生徒の発言を羅列するのではなく、発言を整理してから板書した。発言内容を整理・分類することで、生徒の思考をより促せるものと考えられる。